



第33号
2025年4月発行 津市図書館

主な内容

うぐいす図書館ココ&ティティ・・・・・・・・表紙
各館のイベント報告・・・・・・・・・・2P
知ろう私たちの郷土・・・・・・・・・・3P
レファレンス事例／ベストリーダー・・・・4P



●ココのプロフィール(写真右の白い方)

生年月日・・・・・・2004年11月5日
出身地・・・・・・三重県
性格・・・・・・明るくて、しっかりもの
好きな食べ物・・木いちご
好きな本・・・・・・『しろくまちゃんのホットケーキ』

●ティティのプロフィール(写真左の茶色い方)

生年月日・・・・・・2004年11月5日
出身地・・・・・・三重県
性格・・・・・・やさしくて、めんどろみがいい
好きな食べ物・・はちみつ
好きな本・・・・・・『くまのプーさん』

うぐいす図書館では、ココとティティがお出迎え。
入ってすぐのところに、みなさんに楽しんでもらえるように、月替わりでぬりえや折り紙や
クイズなどちょっと遊べるコーナーがありますので、ぜひ参加してみてください。



➤ |各館のイベント報告から



人形劇団とんちんかん公演/服部美法さん講演会 (2024.7.7/2024.10.19 芸濃図書館)

芸濃図書館では 令和6年7月7日(日)に、人形劇団とんちんかんによる『おたまじゃくし海へ行く』ほか2作品の公演をしていただきました。また、

10月19日(土)には、絵本作家 服部美法さんをお招きし、参加者参加型の絵本の登場人物で役割を決めて読み聞かせを行ったり、絵本作家になった経緯などを講演していただきました。



伊野孝行トーク&ワークショップ『ぼくは絵が好きです』(2025.1.13 津図書館)

令和7年1月13日(月・祝日)、当市出身で E テレ「オトナの一休さん」「昔話法廷」、その他数多くの書籍や絵本で活躍中のイラストレーター、伊野孝行さんの講演会が開催されました！

第一部はトークショー、第二部はデッサン会でしたが、延べ80名以上の多くの方が参加され、この日は津図書館が素敵なアート空間へと変身しました。



「みんなでわいわいゲームしよ！！」(2025.3.2 一志図書館)

令和7年3月2日、一志図書館では「図書館でわいわいゲームしよ！！」が開催されました。

今回は駒やサイコロなどを使う、いわゆるテーブルゲームを図書館内で楽しむイベントでした。ゲームは幼児からできるものから、大人向けまで準備をしました。しかし誰でも知っているゲームばかりではないため、それぞれのゲームのやり方を紹介してくれる講師として、亀山ボードゲーム会の服部さんと「つるこ。」さんをお招きしました。

開館と同時にイベントスタートです。ほどなく親子で次々と参加してくれました。子どもたちは面白そうなゲームを見つけて、おもいおもいにゲームをもって来たり、講師の人のアドバイスでやったことのないゲームを楽しみました。特に人気だったのは「スリルボム！」や「クラッシュアイスゲーム」などで、家族で落ちる瞬間をドキドキしながら楽しんでいました。



参加者の方からは、「とても楽しかった」、「もっと遊びたかった」などの感想を頂きました。

江戸時代はさまざまな文化が発達した時代で、浮世絵など絵画も人気であった。また、当時、絵画の描き方に関する指南書も作られ出版されるなど、鑑賞だけではなく描く方も人気があったことはうかがえる。

それは当時の津でも同じで、実際に絵を学び描く人もいたという。江戸期の津の絵画事情については、『津市史』や『津市民文化』第15号所収の毛利伊知郎氏の「津と絵画—その一断面」や村上敬氏の「近世と津 津の文人画家岡田米山人」の中で詳しく述べられている。それによると、藩主や藩士を始めさまざまな人が本業とは別に、趣味や教養の一つとして絵画を学んでいたという。その時期に活躍した津藩ゆかりの画家として、「田中岷江」や「岡田米山人」などの名前も挙がっている。他にも、「曾我蕭白」等も訪れて津や三重県各地に作品を残している。また、江戸にも店を持つ津の商人たちは彼らを支援した他、書画作品のコレクターでもあったという。

実は、当館の貴重資料であり、津ゆかりの商家の蔵書から成る「橋本文庫」や「稲垣文庫」にも江戸期に刊行または書写された絵画関係資料が合わせて数十点が所蔵されている。この「橋本文庫」の橋本家は江戸期に醸造業を開業した商家であり、「稲垣文庫」の稲垣家は江戸に店を持つ伊勢商人である。ただし、中川豊氏の「ジガミホン醤油橋本家の蔵書」によると、「橋本文庫」の蔵書収集の時期については、主に三代目の時代、つまり明治以降が主となるとのことで、絵画関係もその時期になるのかもしれないが、出版年が江戸期の資料も見られるので、ここではまとめて考える。

資料の種類では、主に描き方の指南書や図譜、古今東西の有名な画人に関するものが多い。例えば、『竹譜』【橋 72-20】と『蘭譜』(橋 72-21)は、竹や蘭の描き方と例を記したものである(写真1)。

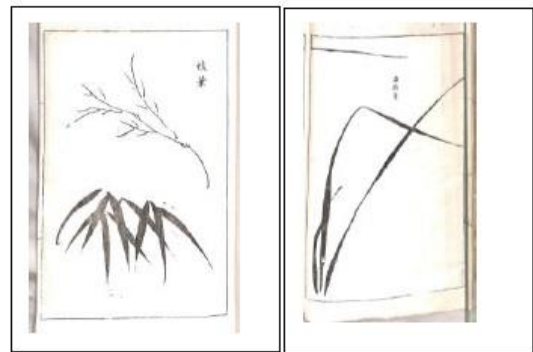


写真1(左『竹譜』、右『蘭譜』)

また、津藩の藩士である斎藤拙堂が序文を書いた『人物十八描法』(橋L70-23)という資料もある。

こうした絵画関係の資料が個人の蔵書として収集されていたことと、当時の津において絵画への関心が高かったことの間に関係があるのかなどは、まだまだ調査や研究をする必要がある。ここでは、関心を持つ人々がいたことと、それらの資料を収集していた人がいたことを紹介して、終わりたいと思う。

参考文献

梅原三千・西田重嗣著『津市史』第三巻(津市役所 1961年)、齋藤正和著『齋藤拙堂傳』(三重県良書出版会 1993年)、中川豊著「ジガミホン醤油橋本家の蔵書」(『中京国文学』第二十六号 2007年)、『津・市民文化』編集委員会編『津市民文化』第15号(津市 2021年)(他)



レファレンス事例(図書館では調べもの相談(レファレンス)を受け付けています)

Q:「ネコギギ」という生き物は何か？動物？植物？

植物なのか、動物なのか、どういうものか国語辞典等で探したが載っていない。植物動物の図鑑にも無かった。

A:ナマズの仲間で、愛知、岐阜、三重に棲む日本固有の淡水魚。清流の象徴といわれています。

昭和52年に国の天然記念物に指定されています。

環境省レッドリスト(2020年)では、絶滅危惧IB類の保全の必要性が高い魚です。

キーワード:植物、動物、生き物、日本の淡水魚、ナマズ目ギギ科

参考図書:「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」山と溪谷社、1990年6月出版、487.5ニ

(久居ふるさと文学館)

ベストリーダー2024 こんな本が読まれました (2024/1/1~12/31)

2024年に津市図書館で貸し出された本のうち、貸出上位の本(ベストリーダー)をご紹介します。

一般書部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	「たび活×住み活」in 三重		ファーストステップ出版	291.5
2	ジブリパーク公式ガイドブック		ジブリパーク	689.5
3	東京観光 '24		昭文社	291.3
4	滋賀・びわ湖 '23 長浜・彦根・大津		昭文社	291.6
4	サブリミタいに栄養がとれる副菜 101	牛尾理恵／著	主婦と生活社	596



文学部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	白鳥とコウモリ	東野 圭吾／著	幻冬舎	913.6
2	ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人	東野 圭吾／著	光文社	913.6
3	クスノキの番人	東野 圭吾／著	実業の日本社	913.6
4	あなたが誰かを殺した	東野 圭吾／著	講談社	913.6
5	希望の糸	東野 圭吾／著	講談社	913.6

児童書部門

順位	資料名	著者名	出版者	分類
1	ノラネコぐんだん アイスのくに	工藤 ノリコ／著	白泉社	E
2	ノラネコぐんだん ペこぺこキャンプ	工藤 ノリコ／著	白泉社	E
3	ノラネコぐんだん おすしやさん	工藤 ノリコ／著	白泉社	E
4	パンどろぼうとほっかほっカー	柴田 ケイコ／著	KADOKAWA	E
5	パンどろぼう おにぎりぼうやのたびだち	柴田 ケイコ／著	KADOKAWA	E

